

# 町内会・自治会 掲示板



北斗市町会連合会では、LINE 公式アカウントをはじめました。町内会情報を発信しています。

問 市役所市民課市民係 [内線 112・115]

## 11/14(火) 北斗市町会連合会 LINE講習会

各町内会の会長および役員21名が、町内会の活性化や負担軽減のために、LINEの活用方法について学びました。

## 12/17(日) 中央親和会 餅つき

約30名が参加。昔ながらの臼ときねでついた餅を、きな粉餅、あんこ餅、雑煮にして、みんなで美味しくいただきました。

## 1/28(日) 谷好自治会 豆まき

約50名が、無病息災を願う豆まきを実施。終了後は、福引大会でさらに交流を深めました。

## ○これから開催する・ 開催中のイベント

### 2/18(日)

#### 常盤町会 グルメ会inホテル恵風

参加をご希望の方は、2月10日(土)までに  
金澤 ☎ 83・5788 まで

### 週3回(月・木・金曜日)

#### 大工川親交会 ふれあいサロン開催中

話題の新スポーツ「モルック」と室内パークゴルフを楽しんでいます。参加をご希望の方は、  
上野 ☎ 73・7982 まで

# 町内会について考えてみる

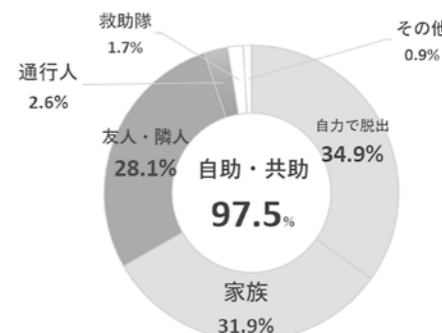
問 市役所市民課市民係 [内線 112・115]

町内会は、災害時の協力体制づくりや高齢者の見守りなど、地域の課題を解決する重要な役割を果たしています。しかしながら、少子高齢化や個人の価値観の多様化により、町内会の加入率低下や役員の担い手不足が深刻になっています。

29年前に起こった阪神・淡路大震災の調査報告書では、生き埋めや閉じ込め被害にあった被災者たちが誰に助けられたかと聞いたところ、97.5%が自力や家族、友人や隣人に助けられたと答えています。TVや新聞などでは、救急隊や自衛隊などの救助隊による救出が報道されますが、救助隊によって救出されたのはわずか1.7%。この数字からわかるように、災害がいざ発生したとき、「あなたを救う、誰かを救う」のは町内会を中心とした地域の力なのです。

デジタル技術の進化により、私たちはデジタルだけで事が足りると思いがちですが、日頃から築いてきた隣近所との関係が、災害時には大きな力を発揮するかもしれません。町内会活動への参加を考慮してみませんか。

## 阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助



出典(社)日本火災学会(1996)「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より作成  
※端数切り上げ処理のため100%になりません

## 町内会活動を通じて何ができるの？

### もしものときのための 防災

いつか来るかもしれない「その日」。日頃からの備えや防災訓練が多く命を救います。誰かを助けるのはあなたです。



### 「町内会」(=多数の意見)として行政等に対し 要望や提案ができる

個人では解決できないような「困ったこと」も、みんなの知恵や力をあわせることで、解決できることもあります。



### イベントなどを通じて 新たな交流関係ができる

仕事関係やママ友とは異なるつながりをつくることができます。また、声を掛け合うことで孤立を防止することができます。



### わが子の成長にも つながる

多くの大人と関わることは、子どもの成長にもつながります。また防犯上においては、たくさんの方が目があることにより、子どもたちを守ることができます。

「町内会・自治会に加入したい」という方は、こちらからお申込みください。



# ふれあいフォト ギャラリー

PHOTO GALLERY



動いて、競って、遊んで、楽しかった！わくわくデー

1月11日(日)、子ども会育成連絡協議会ではラウンドワンで交流会を実施。22名の子どもたちが集まりました。グループに分かれ、ミニボウリングやバスケットボール、バブルサッカーなどで競い合い、その後は、仲良くなったお友達と一緒に、施設内を端から端まで遊びまわりました。

## 野球しようぜ。

メジャーリーグ・ロサンゼルスドジャースに移籍した大谷翔平選手から、33個のグローブとメッセージが北斗市教育委員会に到着し、市内11小学校に3個ずつ届けました。大谷選手からのメッセージをご紹介します。この3つの野球グローブは学校への寄付となります。それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。野球しようぜ。(原文、一部抜粋)



## 誰かがやってくれている。 その誰かになってほしい

小さな頃から町内会に参加していたので、私にとって地域とのつながりは、ごく自然なものです。

町内会への参加によるメリットを問われても、言葉にするというよりは、むしろそのメリットを「感じている」と言った方が、的確かもしれません。

自分の住むまちを美しく保ったり、お祭りやイベントを開催したりするためには、誰かが積極的に行動する必要があります。町内会活動において、なかなか想いを伝えることができない葛藤もありますが、最終的には「誰かがやってくれるだろう」という期待ではなく、その「誰か」に自分になることに意義があると思っています。

当たり前なことを当たり前でやって、実は一番難しいですからね。

東部追分町会会長  
栃木 正則 さん



## 小さな力が大きな力へ

町会の役員間では、グループLINEなどを活用し、コミュニケーションを大事にしています。こうしたコミュニケーション手段を通じて、言われて動くよりも声掛けなど自ら積極的に動くようにしています。主体的に行動することで責任感が生まれ、それがやりがいにもつながるからです。やりがいと言えば、街頭啓発に行くことができなかった時、子どもたちに「この前、さぼってたよ！」って言われたことがあるんです(笑)。登下校時のちょっとした時間でも、自分のことを覚えてくれていたんだなって嬉しく思いました。

町内会のいいところは、お祭りなど何か1つでも目的が出来れば、気持ちが1つになり仲間意識ができるところだと思います。1人の力って小さいけれど、たくさん集まれば大きくなる。町会活動って面倒だと思われる負担も、みんなでやれば軽減していくのではないかなと思っています。

久根別みどり町会  
村山 恵美 さん

